



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『エンジョイ ローター』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年9月29日

No. 10



平成20年9月1日

卓話 『カンボジアでの学校建設』

株式会社中央建築設備 代表取締役社長

東京西ロータリークラブ会員

鬼島 弘明 様



なぜカンボジアの小学校建設プロジェクトがスタートしたかというお話を申し上げたいと思います。ロータリーの奉仕の対象は多岐にわたっておりまして、例えば身障者の方々、ご高齢の方々、青少年、若者が対象になりますが、どうしても奉仕活動は総花的になりがちですので、私の年度に奉仕の対象を若者1本に絞ろうと考え、2000-2001年の東京西ロータリークラブのテーマは「若者に夢と希望と勇気を」としました。27ある委員会の各委員長に、必ず若者に対象を絞ったプロジェクトを組んでくれとお願いして、国際奉仕委員会と世界社会奉仕委員会が共同で単年度の奉仕プロジェクトとして、ホノルル、カピオラニ母子病院の慰安、それから継続性のある奉仕プロジェクトとして、カンボジアの小学校建設というプロジェクトを立ち上げました。

ホノルルのカピオラニ母子病院には当クラブの会員婦人が作っております睦会という会がありますが、その方々の手作りのティディー・ベアー50体を持ちまして、シスタークラブでありますウエスト・ホノルル・ロータリークラブの会長、それからハワイ州の副州知事と同道して慰問してまいりました。これはその日の夜テレビで放映され、またあくる日の新聞に写真入りで大々的に報道されました。

次にカンボジアのプロジェクトについてお話しします。

カンボジアではポルポト政権時代、教育制度が破壊され、人が惨殺されました。家庭は貧しく村には学校もなく、国には教育を立て直す力もありませんでした。子どもたちは小さな小屋

で一生懸命勉強していて教育の場を作ることが急務でした。そういうとき、元ニュース・ウィーク特派員バーナード・クイスチャーがカンボジアに学校を作ろうと卓話で訴えたわけです。私は小学校の建設を決心しました。

理事会では金額が高い、時間がない、なぜカンボジアなのかなどの意見もあって大いに揉め、何度も理事会で提案を練り直しましたが、次年度会長の決断もあって国際奉仕の継続事業となり、さらに一時は同時多発テロの支障などもありましたが、ようやく実現に至り、立派な小学校ができました。2002年、さらに次の会長などが小学校を再訪問したとき、学校はきれいに使われており、村人、先生、子どもたちから大歓迎を受けました。

この事業は、2004年、西ロータリークラブが50周年を迎えた際、ロータリー・ワンとの共同事業に発展しました。ツインクラブ事業として子どもたちの食料確保のため、農園作りを目指し、井戸を掘り、貯水タンクを作りました。子どもたちが力を合わせて農作物を植え、給食が食べられるようになりました。2005年にはインターネットを試み、パソコンの授業も始まりました。

2000年から始まったカンボジアの小学校への支援事業は、これからも子どもたちの笑顔のためにずっと継続していきます。どうもありがとうございました。

